

沖縄県久米島町立自然文化センター

米田 文孝

2004年度、関西大学文学部考古学研究室では、中近世城郭への関心からグスク（城）へと調査研究の対象が発展した学生が中心になり、沖縄島および周辺島嶼部に造営されたグスクの分布調査を開始した。2008年度にはこれらの研究成果を基礎に、城塞化されたグスクが良好に遺存する久米島を主な調査対象地域にした「久米島・伊敷索グスク調査研究プロジェクト」を発足させ、現在まで5次におよぶ現地調査を実施してきた。この現地調査を推進するときの拠点となっているのが、伊敷索グスクに隣接する、久米島町立久米島自然文化センターである。当センターは、久米島町字嘉手苅 542 番地に所在する。久米島西岸に流下する白瀬川の河口近くの左岸に位置するが、その東側には地域医療の拠点となっている公立久米島病院が隣接する。



写真1 伊敷索グスク第1郭（右遠方に宇江城城跡）

当センターは、久米島の自然・歴史・民俗などの展示公開や、地域住民の文化活動の情報発信拠点を担う総合的な文化施設として、1992年度にその基本構想が作成され、1993年度から史資料の収集が開始された。1998年6月には敷地造成工事が、同年11月には本体工事などが着工された。そして、2000年2月ま

でに本体・展示工事が竣工し、同年6月1日に開館した。2003年3月には、登録博物館（沖縄県第8号）となった。

その施設・設備を概観すると、敷地面積は約9,400㎡を測り、建物本体は西（伊敷索グスク側）から東（公立久米島病院側）への緩傾斜地を活かした鉄筋コンクリート2階建（建築面積約1,350㎡、延床面積約2,100㎡）である。1階部分には、エントランス・ラウンジや常設展示室などが配置されている。また、地下1階には、収蔵庫や荷解室などが配置されている。1階部分のエントランスホールでは、来館者に久米島の自然・文化遺産や観光スポットの所在について、解説パネルや情報機器を設置し、幅広い利用者に対応した総合的な理解が得られるように図られている。



第1図 久米島自然文化センター見取図
(同センター2004より、一部改変)

常設展示室は大きく、「久米島の自然」「時代の移り変わり」「久米島の遺宝」「島の暮らし」の4ゾーンに展示区分されている。

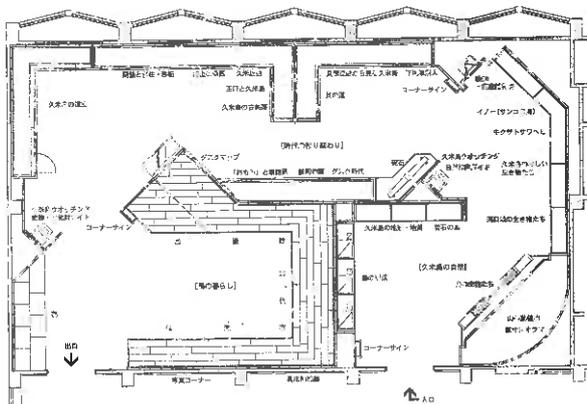
「久米島の自然」ゾーンでは久米島の成立過程をはじめ、山や河口域の動植物、イノー（礁湖）と人との関わりについて、実物資料やジオラマなどで解説している。「時代の移り変わ



写真2 久米島自然文化センター全景（伊敷索グスクから）

り」ゾーンでは久米島の歴史について人類学資料や豊富な考古資料、図説パネルなどを用い、先史時代からグスク時代、近世琉球時代、県政時代への移り変わりを体系的に紹介するとともに、海域アジア世界における久米島の歴史的な状況を展示・解説している。

「久米島の遺宝」ゾーンでは島内の旧家所蔵品を中心に、書画や陶磁器、染織品など海域アジア地域との交流を具体的に示す美術工芸品が展示され、歴史的な背景が解説されている。「島の暮らし」ゾーンでは、現在のサトウキビ栽培とは異なり、稲作が盛んであった時代の島嶼地域独特の生活様式を支えてきた生業用具や祭祀用具などが展示され、多彩な生活文化の変遷や内容を具体的に体感できる工夫が行われている。



第2図 久米島自然文化センター常設展示室
(同センター2004より、一部改変)

久米島は全島が県立自然公園に指定され、久米島のみで生息する絶滅危惧種キクザトサワヘビを保護する「宇江城岳キクザトサワヘビ生息保護区」がラムサール条約に登録されるなど、自然豊富な生態系を残している。面積約58.8 km²のコンパクトな島内に、天然記念物（畳石、チュラフクギ）や城跡（宇江城城跡、具志川城跡）、歴史的建造物（旧仲里間切蔵元石牆、上江洲家住宅）などが周密して立地している。その各種の自然・文化遺産が輻輳した環境は、展示室と実物との距離を縮めている。



写真3 具志川城跡（右側にミーファーガー）



写真4 宇江城城跡一の郭全景

また、図書室には久米島はもとより、沖縄県内で刊行された自然・文化遺産に関する研究書や報告書が多数配架されており、観覧者の知的好奇心への対応のみならず、学芸員が常駐する事務室が隣接して配置されていることから、観覧者は容易に専門的知識にアクセスできることも当センターの特徴の一つである。

このような多彩な博物館活動を運営する組織についてみると、館長以下、自然史や考古・民俗、歴史・美術工芸など、兼務ではあるが各分野に通じた専任の学芸員が配置されており、学識経験者や教育関係者などから構成される久米島自然文化センター協議会がその運営について協議し、補佐・支援する。

その他、各種の講座や義務教育支援をはじめとした多彩な博物館活動のみならず、除草や周辺環境の保全など、可能なことは自ら実施するという、限られた人員・予算に対応する積極的な姿勢も評価できる。今後、クメジマホタル（沖縄県指定天然記念物）の生態環境の保全とそれを生かす昆虫を展示する久米島ホタル館や、久米島が誇る伝統産業である久米島紬の展示・人材育成施設のユイマール館など、島内の関連施設との連携を促進し、さらなる体系的な運営・活動が望まれる。

このように、当センターはその設置条例などに謳われた理念・目標を達成すべく、蓄積された豊富な経験・資産を基礎に、久米島の特色ある自然や歴史、民俗などを沖縄県内外に発信するとともに、文化・教育の発展に貢献する調査研究の中核拠点として、さらなる躍動が期待される。

【引用参考文献】

1. 沖縄県立博物館協会編、2008、『沖縄の博物館ガイド』、東洋企画。
2. 久米島自然文化センター、2004、『久米島自然文化センター年報』第4号、同センター。
3. 盛本勲編、1994、『具志川の遺跡—詳細遺跡分布調査報告書—』、具志川村教育委員会

文学部教授